

# 脊髄小脳変性症によるいざりトイレの工事

施工する前にホームページや本でずいぶん探しましたが、日本全国何を、どこで探しても既設床高さから埋め込み、尚且つ前から座り込みタイプのいざり用の水洗便所の施工例は全くありませんでした。

簡単に言うとほとんどが床を嵩上げた条件下での施工例しかありません。

しかし今回は全般的にいざりでの生活でないと日中の生活は難しく、まずは車いす等々の移乗すら難しい、そしていざりでさえも体幹保持が難しく転んでしまうくらいの身体状況でした。もし、同じ病気でこんな工事が必要なら是非参考にさせて頂きたいと思います。

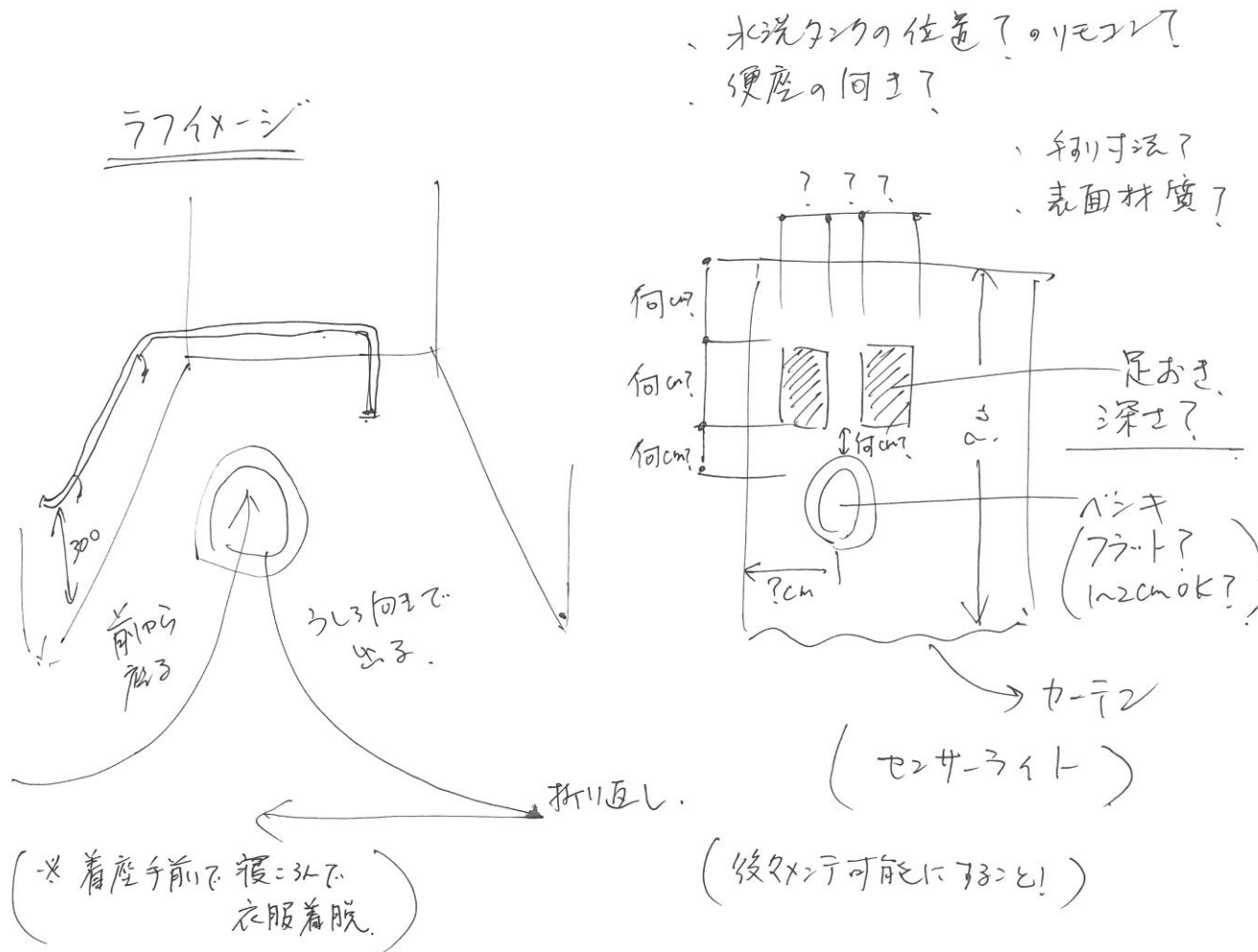
施主様にもその旨をご理解頂いたうえで、写真等の利用許可を得ております。  
福祉用具の知識も融合した施工例です。

施工側からすると、簡単なようで非常に難しい工事です。(特にア  
特に今回は「進行方向側に座る」トイレです。  
この場合タンクが邪魔で座れないのです。」



また上肢筋力も急激に低下中でしたのでタイミング的にも非常に難しい工事だったと思います。

## 一番最初の段階のラフスケッチ



当然「できます」と言ったものの問題だらけでしたが、ぼんやりと案はありまし

## ●施工の問題点

- ①床下の深さ、排水管の勾配
- ②水洗の場合のタンク位置
- ③便座の向きの問題
- ④各種詳細寸法の確定
- ⑤今後のメンテナンス
- ⑥今後の改造変更にどう対応するか？

## ●身体的問題点

- ①身体状況が不安定(乱高下激しい)
- ②常時見守りがある状況ではない
- ③夜間等の排泄
- ④大幅な生活様式の変更  
(ベッド・車いすなど基本高さが変わるなど)
- ⑤できる限り自分でできる環境
- ⑥どこまでを介助するかの判断
- ⑦その他介護サービスとの組み合わせ

## 今回の改修目的

基本的に安全な自立排泄を目的とする。

今後の身体状況による介助排泄においてはその後検討することとする。

下記寸法は実際のリハビリの動きにて確認し調整していく必要があります。

いざり専用H300前後と考える

姿勢保持も勘案し最大3方で考える

寝転んだ姿勢からの起き上がりが難しければ  
横手すり途中に縦つなぎも考慮する。

便器は隅付しか難しい。

(便器とタンクが離れるため)

便座は補高便座としますので、1.5cmほど便座が上がります。

一度持参し試していただくことが可能です。

洗浄は自動は不可ノリモコン操作となります。

ウォシュレットや暖房便座タイプは難しい。

冷たく感じにくい素材の便座とします。

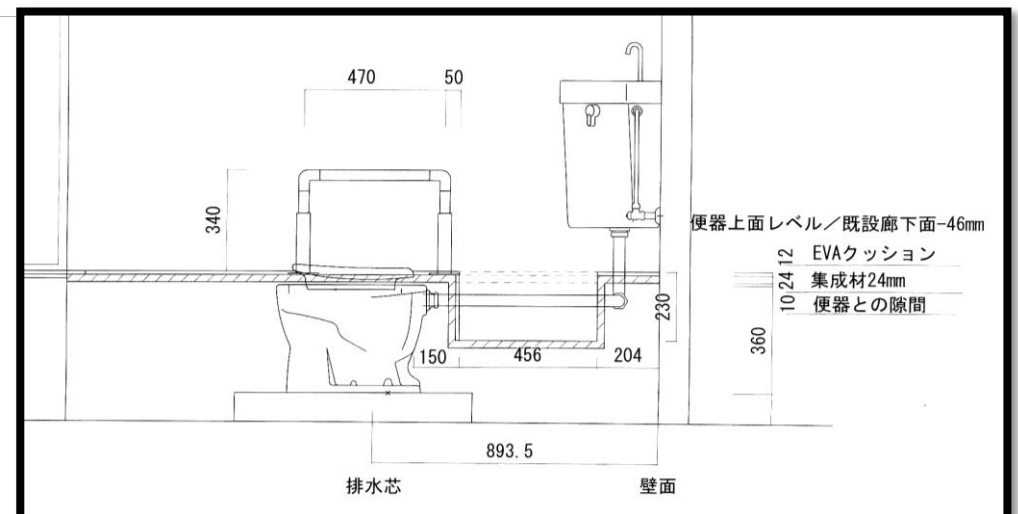
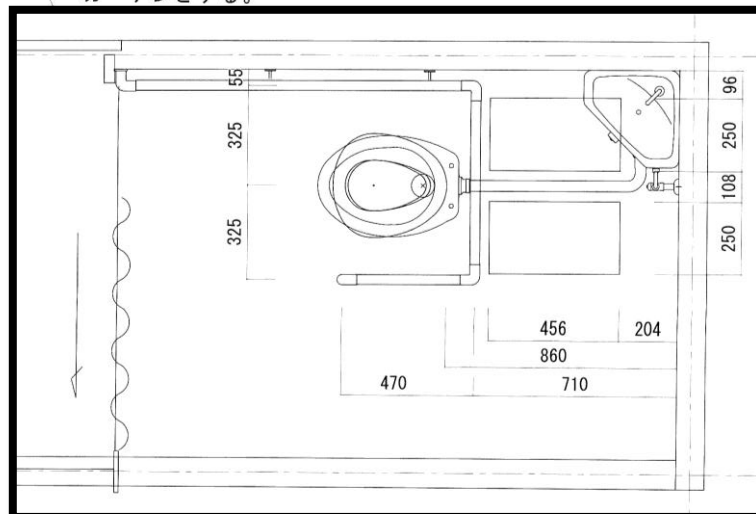
ペーパーホルダ位置も施工後試す必要あり

床材はクッション性のあるマットとし、いざりできる範囲の素材  
廊下面+マット高さになるがおそらくいざりには問題なし  
ジョイントはへの字押さえとする  
解体容易な構造とし、ボンド接着は無し・ビス止め一枚板とする。

カーテンとする。

# 基礎原案

便器の向きはそのまま、便座の向きだけスパーサー(昇降便座用スパーサーを部品どりする)にて形状を整え歩行便座を置き、床材で埋め込むことにしました。商材を知り尽くさないとこの案は浮かんでできません。





現況



イメージ確認



荷物撤去



床・棚解体



便器設置・配管工事



↓ 流すリモコン



僕が座るとこんな感じです。

**完成！！**

床面は転んでもいいようにEVA素材



手すり延長



蹴り込みの台



実際に使いだしてから微調整はADLの変化に伴い変える必要があります。

床地組み工事



延長して配管・支持



集成材24mmで  
ビス止めのみ



マジックで脱着・清掃が可能

